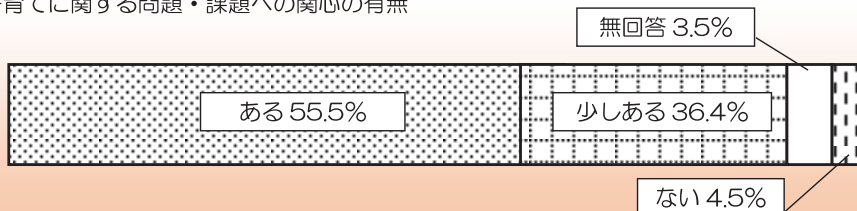


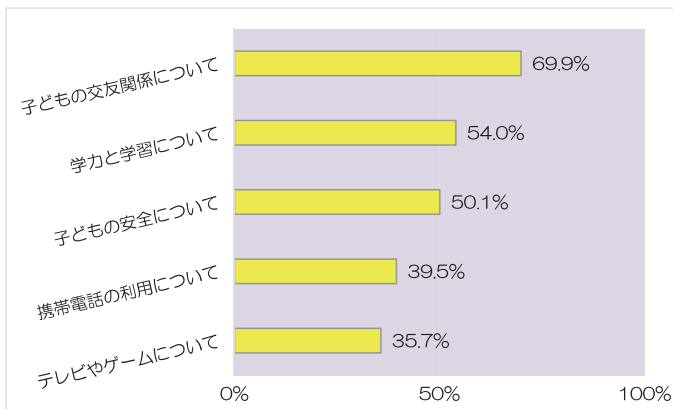
親はどう関わればいいのか？ 子どもの交友関係

平成25年に北海道教育委員会が実施したアンケート調査（下グラフ）によると、保護者の子育てに関する問題・課題への関心は非常に高く、「ある」「少しある」を合わせると90%を超えています。

★子育てに関する問題・課題への関心の有無



★保護者の関心のある子どもの問題・課題の内容（上位5項目）



中でも、「どのような問題・課題に関心があるか」を尋ねたところ、上位5項目は左図のような結果となっており、約7割の保護者が「子どもの交友関係について」特に気にかけている、ということが言えます。

親にとっては、子どもの学校生活や友達関係は気になるもので、ちょっとした様子の変化も心配になりますね。子ども間の大きなトラブルを回避することは必要ですが、行き過ぎた心配や、過保護、過干渉になってしまう場合もあります。



★子どもの交友関係について心配なことを書いて、他の保護者と交流してみましょう。



「子どもの交友関係について、親がどのように関わればよいか」難しいこともあります、巷には様々なアドバイスに関する情報が紹介されています。それぞれの家庭で状況が違いますので、あまり鵜呑みにするのは適切でないと思いますが、ちょっと見方を変えることができた、気持ちが楽になったりすることもあるので、参考にしてみるのには良いことでしょう。

たとえば・・・

原則は見守ること！入り込みすぎないようにしましょう！

小学生になると「見守るのが親の仕事」という保護者の声が圧倒的。子どもの世界に親が入りこみすぎると、逆にトラブルの元になることもあるようです。

言葉より、様子や表情で我が子の変化に気づいてください！

食事の量が減る。いつも楽しむゲームをしないなど、何かあると気づくポイントが必ずあります。無理に問いただすより「話を聞かよ」という雰囲気づくりが大事だと思います。

友達の気持ちを親子で一緒に考えることが大切です！

低学年のうちには自分中心の発想で怒ったり、ケンカをするケースも少なくありません。まず我が子の気持ちに寄り添って共感してから、相手の気持ちを一緒に考え、思いやる心を伸ばすのもポイントのようです。

子ども同士で考えさせることが一番です！

子ども同士のささいなモメごとは、任せる勇気、見守る勇気、信じる気持ちが試されます。子ども同士で解決させることで、子どもがまた一段と成長するのではないのでしょうか。

子どもの友達と仲良くなりましょう！

小学生になると子どもの行動範囲も広がり、どこで何をしているか見えにくくなることも。だからこそ見える範囲に招き入れ、お友だち全員を見守ってみるのも手のようです。



参考：「Como」（主婦の友社）